

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 1 日現在

機関番号：34504

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2009～2012

課題番号：21402033

研究課題名（和文）海外BRICs新移民に関わる国際比較調査研究—米、英、豪、日本を対象として—

研究課題名（英文）Comparative Studies on the New Migrants from BRIC Countries in America, Australia, Japan and the UK

研究代表者

陳 立行 (CHEN LIXING)

関西学院大学・社会学部・教授

研究者番号：60278314

研究成果の概要（和文）：

この研究を通じて、BRIC の移民が移民先によって社会統合のメカニズムが異なることを明らかにした。特にエスニック・グループの連帯と移民先の社会統合と逆相関を持つことが非移民国家のイギリスと日本の調査結果から見られた。また、BRIC 移民の帰属に関する精神構造に対して量的解析結果を得られた。出身国と移民先国に対する愛着程度により、BRIC の新移民に対する類型化をした結果、両方とも愛着する Double Allegiance の類型に最も多く、全体の 40.7% を占めている。その中、ブラジル移民が最も多く、次いで、インド、ロシア、中国の順で続いている。Double Allegiance の類型にロシアと中国の移民が比較的少ないことに対して、出身国と移民先国の社会体制の異なりが移民の帰属意識に対して大きな影響を与えることが明らかになった。このような結果は、移民によるイノベーションの移転をサポートする帰属感に関わる精神的構造の解明につながり、冷戦終焉以降国際新移民に関する研究に大きく貢献できる。

研究成果の概要（英文）：

It is clarified that the mechanism of social integration of immigration from BRIC is quite different from countries. The solidarity of an ethnic group shows negative correlation with the immigrants' integration to the settle down society.

Moreover, the quantitative analysis results support the mental structure relating the allegiance towards the origin countries and immigrating countries

According to the allegiance grade to the origin and the immigration country, the data shows that the type of Double Allegiance which means have allegiance both come to top of 40.7%, among which, the immigrants from Brazil comes top followed by the immigrants from India, Russia, China. This shows the difference of the political system between the origin and the immigration country influence immigrants greatly on their mental structure relating the allegiance towards both the origin countries and immigrating countries. This finding can contribute to the research on the international migrants after the cold war.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合 計
2009 年度	2,400,000	720,000	3,120,000
2010 年度	5,500,000	1,650,000	7,150,000
2011 年度	2,800,000	840,000	3,640,000
2012 年度	2,800,000	840,000	3,640,000
年度			
総 計	13,500,000	4,050,000	17,550,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学

キーワード：移民政策、多民族国家、国際社会学、BRICs 移民、比較研究

1. 研究開始当初の背景

(1) 経済グローバル化の急速な進行に伴い、新興国は近年経済の高度成長を遂げたと同時に、様々な領域で世界との協働が進んでいる。BRICs 諸国は様々な分野で、国際舞台への進出が加速していると予測している。BRICs の諸国のあり方は 21 世紀の世界構図の再構築に大きな影響を与えることに違いないが、政治体制において BRICs 諸国には不確実な要素が多く潜んでいる。

一方、グローバル化の進行に伴い、多民族国家の構築は世界の流れとなっている。地球人口の半数以上抱える BRIC 諸国は先進国に多くの移民を送り出している。本研究は BRIC の新移民に着目して、彼らの海外社会での適応と統合のプロセスを明らかにする上で、多民族国家のあり方、また、個々の移民の身に着けたイノベーションを出身国へフィードバックし、BRIC と世界との政治的、経済の協働に対する影響を明らかにすることが求められている。

(2) 本課題の研究代表者である陳立行は 2004 年まで、イノベーション移転の視点から外国人労働者の研究を行い、その研究成果が注目され、2008 年、イギリスの London school of Economic and Political Sciences (LSE) の Prof. Stephan と

Dr. Chang から、アメリカ、オーストラリア、中国、ドイツ、ロシア、の 5 カ国の学者に関わる「海外中国比較研究ネットワーク」CCPN (The China in Comparative Perspective Network と共同して、比較研究プロジェクトを発足することを呼びかけられた。陳は国連地域開発センター時代から、長年海外調査研究を継続し、BRICs 諸国に多くの研究協力関係者の人脈を有している。これらのネットワークを活かして、移住先の先進国だけではなく、新移民の出身国と移住国との間の働きに関わる研究を進めていこうと考案した。

2. 研究の目的

(1) 移民をイノベーションの carrier とする視点から移民の出身国と移住国との政治的、経済的協働に対する役割を明らかにする。ここでは、イノベーションについては二つのカテゴリーに分けて認識できる。一つは生産過程における先進的な技術、技能とノウハウでもう一つは資源の動員と管理、異なった文化と価値及び社会体制と考えられる。

(2) イノベーションの移転は移住先社会と送り出す社会でのインプットとアウトプットとの循環が不可欠である。その循環の

達成の可能性が送り出す国と受け入れ国の社会政策、社会環境によって異なり、個人の素質によっても異なる。つまり移民の受け入れ国と送り出す国において、イノベーション移転に関わる個人と社会との相互作用のプロセスの究明を目的としている。

3. 研究の方法

(1) 立案の段階からの共同作業。この研究プロジェクトを実施するために、海外の研究拠点としてのLSEのほか、複数の大学や研究機関から多様な人材を集めようと考えたため、LSEの研究コーディネーターと役割調整、研究内容、段取り、成果の公表などについて最初からはっきりと話し合い、途中の研究成果についても、いつ、どの程度の内容を公開するかに関して常に情報を交流しながら進めていくことを約束した。

(2) プロジェクトのHPを通じて若手研究協力者を公募することを試みた。その結果、38人の応募者があり、その中から6人を選出した。6人の中には大学の若手教員が2人、Cambridge、Oxford、LSEの博士課程大学院生が各1人、ロンドンの法律事務所の司法修習生が1人含まれている。国籍はロシア、オーストラリア、カナダ、シンガポール、ブラジル、香港である。彼らにはこれまでBRICの移民に対する研究蓄積があり、鮮明な問題意識をもち、国際学術研究に参加する意欲が非常に高い。

(3) 出身国に帰国した移民に対するインタビュー調査の工夫。中国の場合は研究代表者が長年蓄積したネットワークを通じて、帰国した人が集まるイベントや行事に合わせて対面調査を行った。ブラジルに帰る日系人に対しては、県人会の協力を得て調査ができた。インドとロシアの帰国移民に対しては、インターネットを通じて調査対象

を探すことを決めた。Cambridge 大学、Oxford 大学、LSE、など大学のOB同窓会と接触し、そこからインドとロシア人留学生OBのメーリングリストの管理者に対して本研究の趣旨を説明することで、インターネットを通じてインタビュー調査の協力者への呼びかけを可能にした。約300人から18人が協力できるという回答を得られ、インタビュー調査を実施した。

(4) インターネットを通じてのアンケート調査の実施。LSE (London School of Economics and Politics) の調査サイトを利用して、アンケート調査を実施し、636のアクセス回答を得られた。出身国別には、ブラジルから181人28.5%、ロシアから158人24.8%、インドから122人19.2%、中国から175人27.5%となっている。移住国別には、イギリスから141人22.2%、アメリカから107人16.8%、オーストラリアから161人25.3%、日本から227人35.7%となっている。本調査では情報機器を駆使できる新移民の特質に対して、これまでのランダム抽出の方法と異なり、ネット上のコミュニティを母集団にして、インフォメントは自らアクセス回答してくれる調査手法を試みた。これは、情報社会における社会調査の方法論に対する新しい挑戦となった。

4. 研究成果

(1) 聞き取り調査結果

受け入れ国として、移民国家ではないイギリスと日本のエスニック・グループのあり方とその社会統合に与えた影響が異なっていることが分かった。イギリスではChina Townのネットワークは中国人コミュニティの連帯に役立つが、現地社会との統合にマイナス影響を与える。これに対して、ロシア移民は教会を通じて精神的連帯感を

持ちながら、よりスムーズにイギリスの社会と統合することが見られた。日本では、飲食職業以外の中国人新移民は China Town との関連が弱く、日本社会への統合が進んでいると見られている。一方、ブラジル人移民はレジャー活動以外、就職や子供の教育などについて、エスニック・グループ内部の相互支援のネットワークが強く機能しているため、エスニック・グループとして日本社会との距離が見られる。インド人移民は、子供のため英語の学校が設立され、学校はインド人の接点として機能しているが、インド人のエスニック・グループがまだ出来ていない状態である。

また移民の出身国へ還流の実態に関しては、ロシアでは海外学位認定制度、インドではカースト制度がハイレベルな移民の還流を阻むことに対して、中国では政府が主導するインキュベーターや帰国者に対するさまざまな優遇政策は移民の還流を促進することが分かった。

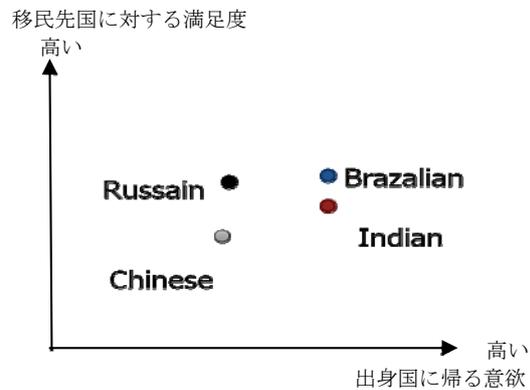
(2) アンケート調査解析結果

アンケート調査結果に対する解析から、移民先での適応の事態、問題点、出身国との繋がりの実態など多くの結果が得られ、個々の論文にそれぞれ詳しく論じた。ここでは、これまで無かった BRIC 移民の精神構造に関わる量的解析結果を得られたことは今後の国際移民研究に大きく貢献できる。

出身国と移民先国に対する愛着程度により、BRICs の新移民に対する類型化を行った結果、両方とも愛着する Double Allegiance の類型が移民全体に最も多く、40.7%まで占めている。その中、ブラジル移民が最も多く、続いて、インド、ロシアで、中国の移民が最も少ないことが分かった。このような結果から、移民によるイノベーションの移転をサポートする移民の精

神的構造の解明につながる。また、Double Allegiance の類型にロシアと中国の移民が比較的少ないことに対して、社会体制の移民の帰属意識に対する影響が明らかにされた。

図 BRIC 移民の Double Allegiance の分布



5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計6件)

① Esuna, Dugarova, *Web-based Mechanisms for Citizen Feedback in China*. Report, Social Development Sector, East Asia and Pacific Region, World Bank. 査読無 2012.

http://www.academia.edu/1793414/Web-based_mechanisms_for_citizen_feedback_in_China

② Dugarova, E. *Policy Implications for Chinese and Russian Skilled Migrants in the UK*. Proceedings of Westminster Legal Policy Forum Keynote Seminar 'Immigration - Assessing Government's Strategy', London. 査読無、2012

http://www.academia.edu/1492264/Policy_implications_for_Chinese_and_Russian_skilled_migrants_in_the_UK

③ **Athar Hussain** *Rural-Urban Migration in China-Scale, Composition & Pattern* 『21世紀東アジア社会学』、査読有、第4号、2011、pp.1-35

④ **陳立行** (Lixing Chen) *Dynamics of Personal Networks*、Kwansei Gakuin University Social Sciences Review、査読有、Vol.16,2011、pp.37-52

⑤ **陳立行**、(特集：国際比較調査の困難性と可能性)「海外BRICS新移民に関わる国際比較調査研究」、『社会と調査』、査読有、第7号2011、pp.34-41

⑥ **Anada Kumara**、*Coping with International Migration and Implications for Higher Education and Society in Japan*、Suzuka International University Journal、Vol 16、査読有、2010、pp.117-132

[学会発表] (計10件)

① **CHEN Lixing**, *Comparative studies on what influence the migration from BRICS channelling back to their home countries*, International conference How do migrants from the BRICS countries participate in shaping the global society?, Asian Research Center, London School of Economics and Politics, 2 March, 2013,

② **KOMAI Hiroshi**, *Allegiance Problems to Settled and Home Countries: Dynamics and Effects*, International conference How do migrants from the BRICS countries participate in shaping the global society?, Asian Research Center, London School of Economics and Politics, 2 March, 2013,

③ **Kumara Ananda**, *Japan's Labour*

Structure in Transition? Lessons from the Brazilian Labour in the Mie Prefecture、International Conference, How do migrants from the BRICS countries participate in shaping the global society?, Asian Research Center, London School of Economics and Politics, 2 March, 2013,

④ **SHAO Chunfen**, *Homeland Calling, Family Pulling: New Migrants from BRIC Countries in the UK, USA, Australia and Japan*, International conference How do migrants from the BRICS countries participate in shaping the global society?, Asian Research Center, London School of Economics and Politics, 2 March, 2013,

⑤ **Esuna Dugarova**, *Skilled Russian Migration: Impact on Development through Empowerment*, International Conference How do migrants from the BRICS countries participate in shaping the global society?, Asian Research Center, London School of Economics and Politics, 2 March, 2013,

⑥ **Ka-kin Cheuk** *From vulnerability to flexibility: Indian middleman traders in Shaoxing, China*, International Conference How do migrants from the BRICS countries participate in shaping the global society?, Asian Research Center, London School of Economics and Politics, 2 March, 2013,

⑦ **Helen Tung**, *Chinese lawyers in Brazil, Australia and the UK - a three way comparison*, International Conference How do migrants from the BRICS countries participate in shaping the global

society?, Asian Research Center, London School of Economics and Politics, 2 March, 2013,

⑧ アナンダ クマーラ 「グローバル化と多文化共生時代～地域への課題」、鈴鹿市「多文化共生研修会」特別講演、2011年9月29日、鈴鹿市市民会館

⑨ 陳立行、「中国における海外人材の還流について」、日中社会学会第23回大会、2011年6月3日、関西学院大学。

⑩ 駒井洋 「世界における中国人ディアスポラについて」日中社会学会第23回大会、2011年6月3日、関西学院大学。

〔図書〕(計 5件)

① ロビン・コーエン著 駒井洋訳『新版 グローバル・ディアスポラ』明石書店、2012年、420ページ

② 小倉充夫・駒井洋編、『ブラック・ディアスポラ』明石書店、2011年、264ページ

③ 永野 武 編著『チャイニーズネスとトランスナショナルアイデンティティ』、明石書店、2010年、298ページ

④ 駒井洋、『食欲に抗する社会の構築—近代合理主義をこえる仏教の叡智』明石書店、2010年、368ページ

⑤ 駒井洋・江成幸編 編著『ヨーロッパ・ロシア・アメリカのディアスポラ』、明石書店、2009年、308ページ

〔その他〕

ホームページ等

<http://ccpn-global.com/cms.php?artid=224&catid=146>

<http://ccpn-global.com/cms.php?artid=46&catid=150>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

陳立行 (CHEN LIXING)
関西学院大学・社会学部・教授
研究者番号：60278314

(2) 研究分担者

アナンダ クマーラ (ANANDA KUMARA)

鈴鹿国際大学・国際人間科学部・教授
研究者番号：00271396

永野 武 (NAGANO TAKASHI)

松山大学・人文学部・准教授 H21-23
研究者番号：50268736

大谷 信介 (OTANI SHINSUKE)

関西学院大学・社会学部・教授 H22-24
研究者番号：10168974

(3) 連携研究者

駒井 洋 (KOMAI HIROSHI)

筑波大学・名誉教授
研究者番号：20058100